

M E E T

Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト

平成26年(2014年)5月1日(木)

第72回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立中央公民館と共催で、3月20日(木)に開催しました。

講師の片山洋子さん、太田伸彦さんには、平成25年度のテーマ「環境とエネルギー」の掉尾にふさわしく「食品ロスの削減・まずは完食！でも次は…～地球にやさしい生ゴミ処理～」と題して話していただきました。

食品ロスの約半分は、一般家庭からのものであり、京都府生活学校・生活会議は、「食品ロス削減」について研修を進めてこられました。そんな時、地元の長岡第四小学校で家庭の生ごみを集めて地球にやさしい生ゴミ処理をしている取り組みと連携し、子どもたちが更に考え行動に移した取組を紹介していただきました。

参加者の感想

1

日頃子供たちと勉強しているときにどのように接するのがいいか迷うときがあります。

今日の太田先生のお話でヒントをいただきました。

「環境教育の基本は、① 興味を持つきっかけを作る ② 根拠をもって自分の考えを伝える、語る ③ 調べたことを誰かに伝えるときはわかりやすく語る ④ 実生活につ

ながることをテーマにする」(少し表現が違っているかもしれませんが)

子供たちと接していますと、その能力の高さや、アイデアを発想する力、好奇心大きさに感心さされることがよくあります。今回の「生ごみ回収目標1トン」を成し遂げた児童の活動には、先生方やボランティアの市民の方々のご尽力で、子どもたちのこのような能力をうまくひきだしていただいた結果と思います。

今後の活動に大変参考になったミーティングでした。



2

食糧自給率が約40%と大変低い我国であるが、ゴミとして廃棄される食糧(食品)が非常に多いという問題がある。そして食品ロスの約半分は一般家庭から出されると言われている。

そこで、京都府生活学校・生活会議では「食品ロス削減」について研修を進め、取り組みを開始したところ、ちょうど片山さんの地元『第四小学校』で、家庭の生ごみを集めて“地球にやさしい生ごみ処理”をしていることを知ったそうだ。

小学生(6年生中心)が主役の取り組みであるが、仕掛け人(校長先生以下教職員)が居て、脇役は保護者であろうか、更に片山さんなど地域でサポートされている方々が居て実現されたものと理解した。

また、全国大会まで勝ち上がり、優秀賞を受賞するにはコーディネーター役を果たされた行政の方など地域挙げての取り組みが支援した部分もあったものと思われる。



今後については、新6年生以下が上手く引き継いで活動が継続されるよう期待したい。

太田校長と片山さんの連携発表で、取り組みの内容や背景等がよく判った。

“低炭素杯”や、その前の“エコワングランプリ”でも当市から毎年のように優秀賞を受賞する団体が出ているが、市民レベルにも環境取り組みがもっと広がっていくようになればいいと思います。

3

片山さん、太田校長のお話ともに分かりやすくとてもよかったです。

片山さんが身近な生ごみ活用から始められた食品ロス削減運動を地域の小学校に働きか

けた勇気にまず感動、そしてその運動に賛同し、子供たちとともに粘り強く取り組んだ学校の姿勢にさらに感動しました。きっと子供たちは家庭で母親に食品ロス削減を呼び掛けたことでしょう。

家庭の協力を得て学校に生ごみを持ち込み、たい肥化に取り組んだ1年間。

全国「低炭素杯 2014」での、その成果発表をビデオで見せていただきましたが、子供たちはやりきった誇らしさがあふれていました。

子どもに環境教育をしていくことがつくづく大切と実感しました。

